

=====

6. <水球陣>関東学生リーグ題6戦

H25.6.22 対学習院大 @専修大生田プール

東大 2 4 2 1 計9
学習院 2 0 2 6 計10

得点者：大脇(1)、桐生(3)、横山(1)、浪間(1)、池亀(2)、梶原(1)

関東学生リーグを締めくくる最後の戦いとなった学習戦。この一戦、なんとしてでも勝ち、有終の美を飾りたいところ。8分計が故障するなどもあり、選手らは試合に向けてより一層の緊張が走る。

第1ピリオド

試合開始、東大はなんとか流れをつかみたいところ。開始2分、大脇が退水し、先制点を奪われる。しかし、直後にパス回しから桐生がシュートしすぐさま同点へ。しばらく攻防が続くも、カウンターからのチャンスを逃さず波間が得点。このまま押し切りたい東大であったが、残り4秒、シュートを決められ同点となりこのピリオドを終える。

第2ピリオド

序盤からプレスをかけ、ディフェンスで強いプレッシャーを与えていたが、パーソナルファウルを取られてしまう。中盤にて、大脇がこの試合2回目の退水。しかし、試合残り15秒強で梶原がシュートをねじ込むなど、蓋を開けてみれば4:0で東大が大きくリード。

第3ピリオド

新たな8分計が用意される。開始直後、3回目の退水となり、永退となってしまった大脇。主将を失った東大は横山を投入するも、悪い流れは断ち切れず、点を取っては取られ、取っては取られの攻防戦に。ラスト10秒で敵にループシュートを決められ、このピリオドを2:2で終える。

第4ピリオド

東大が4点リードして迎えた第4ピリオド。序盤から敵に攻めで押され、退水セットから先制点を奪われる。更に続けて点を決められ、2点差に迫られるも、桐生がすぐさま奪い返し再び引き離す。しかしその直後に点を取られてしまい、試合の空気は相手側に支配されてしまう。敵から永退を取るも、ラスト2分、敵に連続ゴールを決められ同点へ。後がない東大。会場が両チームの声援に埋もれるなか、残り19秒、学習院に逆転ゴールを許してしまう。終了の笛がなり、東大はまさかの逆転負けを喫することとなった。

関東学生リーグ最終戦。選手にとって、チームにとって、大きな屈辱を味わうこととなった試合であった。中に下がられ浪間が抑えられたり、主将である大脇が退水したりなど技術的な面での反省点の他に、泳力や練習に臨む態度、注意力の欠けなど、精神面での課題も多く見つかった。これらを順に克服していくことでチーム力の総合的な向上を目指したい。

最後に、監督をしてくださった田丸さん、遠方まで応援に駆けつけてくださった林 祐三さん、轟さん、中野さん、山本さん、堀江さん、ありがとうございました。

(文責 小池俊吾)
